

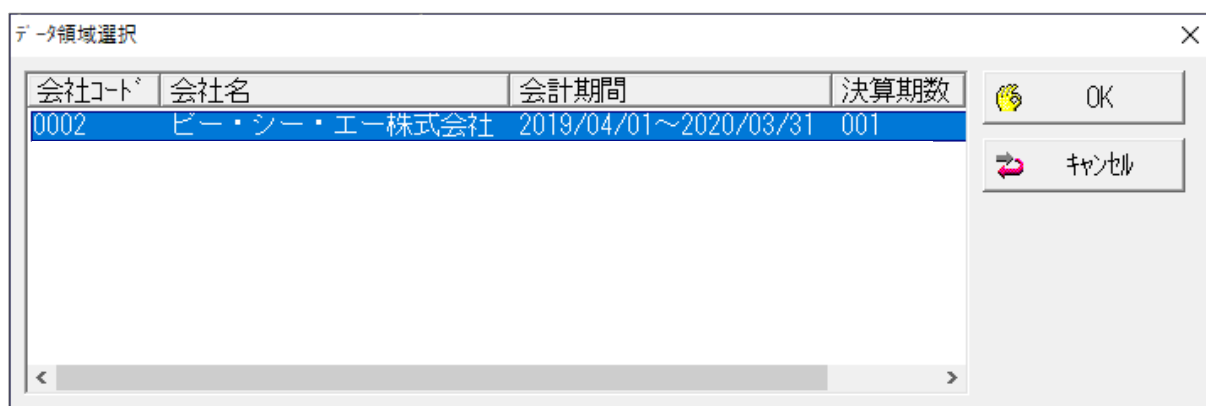
◆ 期末更新処理（新規更新）の操作手順

（画面例はすべて『PCA 建設業会計 V.7』を使用しています）

■ 新年度のデータを入力したい場合は、「ファイル」－「期末更新処理（新規更新）」を行ってください。決算が未確定でも実行できます。

この処理を行うことにより、前期データ領域の「前準備」「工事情報処理」で設定した各種マスターの他に、残高、転送工事の残高も新年度の期首残高へ反映されます。

- ① 作業中のトラブルに備え、「ファイル」－「データ領域のバックアップ」にて前年度のバックアップを実行します。
（例：ピー・シー・エー株式会社 第1期のバックアップを実行します。）
- ② メニューの「ファイル」－「データ領域の選択」を選び、前年度を選択して [OK] を押します。
（例：ピー・シー・エー株式会社 2019/04/01～2020/03/31 第1期を選択します。）



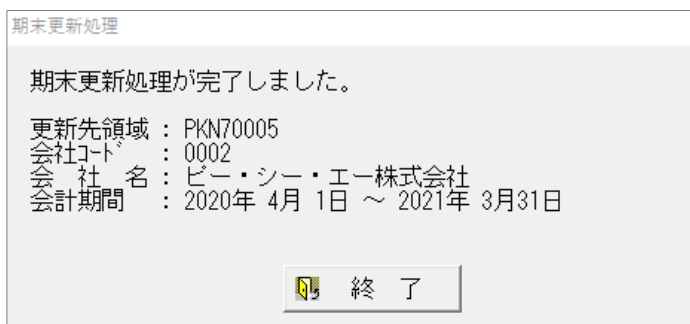
- ③ メニューの「ファイル」－「期末更新処理」を実行します。
※ 新規更新の場合、更新先領域は「新規領域」と表示されます。
※ [税抜更新] [税込更新] は、会社の経理方法に合わせて選択してください。
一つの目安として、決算整理仕訳に仮受消費税等、仮払消費税等の相殺仕訳を入力し、税抜の決算書を作成している場合は [税抜更新] を選択し、免税事業者などで仕訳を税込で処理している場合は、 [税込更新] となります。



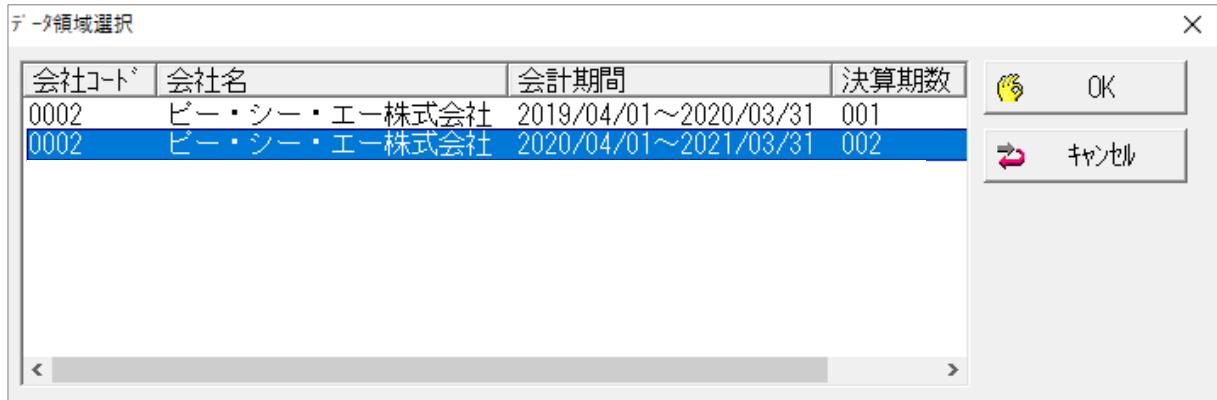
- ④ 「転送工事の選択」で新年度、転送しない工事を [削除] を押し転送しない工事に移動させます。完了しましたら [OK] を押します。

※未成工事、まだ入出金が残っている工事は転送していただきます。

【注意】転送しない工事を誤って転送する工事で更新した場合、新年度で削除する必要があります。



- ⑤ メニューの「ファイル」－「データ領域の選択」を選び、新年度が表示されていれば完了です。
※新年度への入力の際は、新年度を選択し[OK]をクリックすることで領域が切替わります。
(例：ピー・シー・エー株式会社 第2期を選択します。)



◆ 期末更新処理（再更新）の操作手順

■ 「期末更新処理（新規更新）」を実行した後、前年度の仕訳データが変更された場合に実行します。

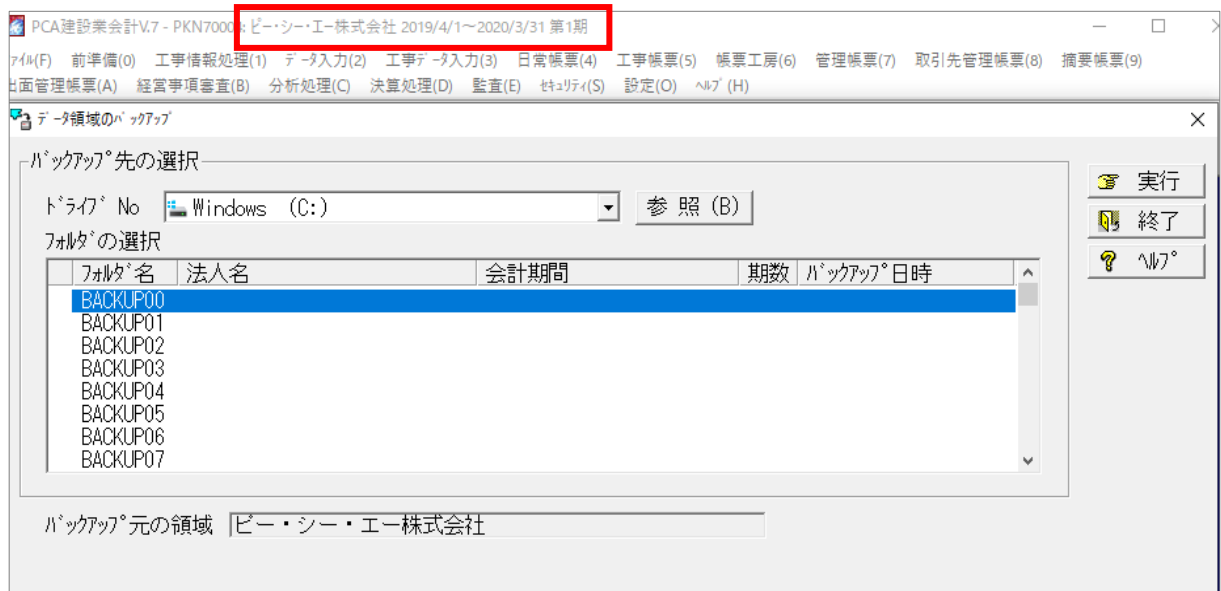
決算が確定するまでに2ヶ月ほどありますので、前年度の残高を新年度の期首残高へ反映させる場合は、「期末更新処理（再更新）」を実行してください。

なお、再更新は何度でも実行することができます。

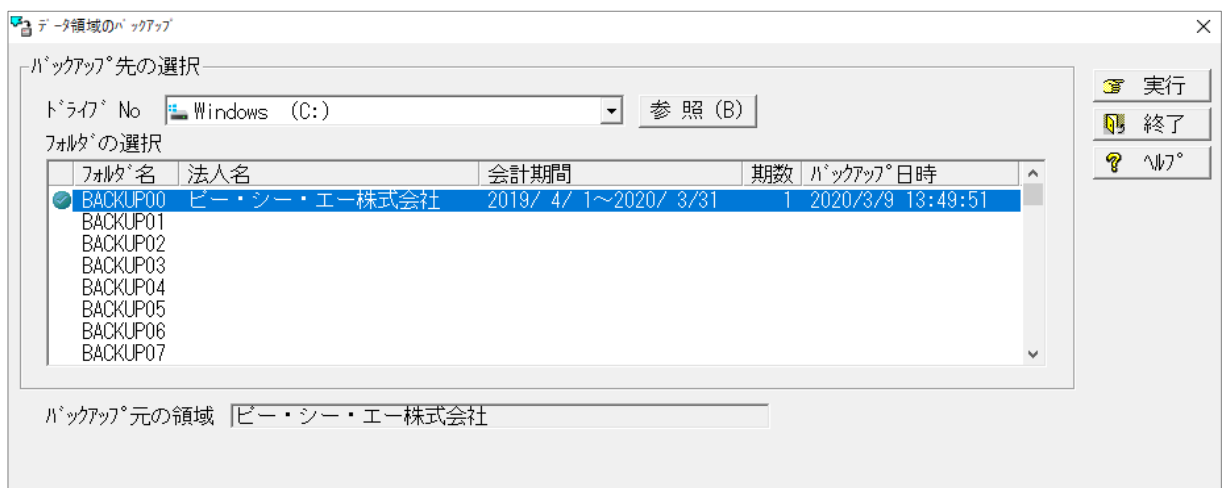
① 作業中のトラブルに備え、「ファイル」－「データ領域のバックアップ」（または「データ領域の一括バックアップ」）にて前年度・新年度のバックアップを実行します。

（例：ピー・シー・エー株式会社 第1期、第2期をバックアップを実行します。）

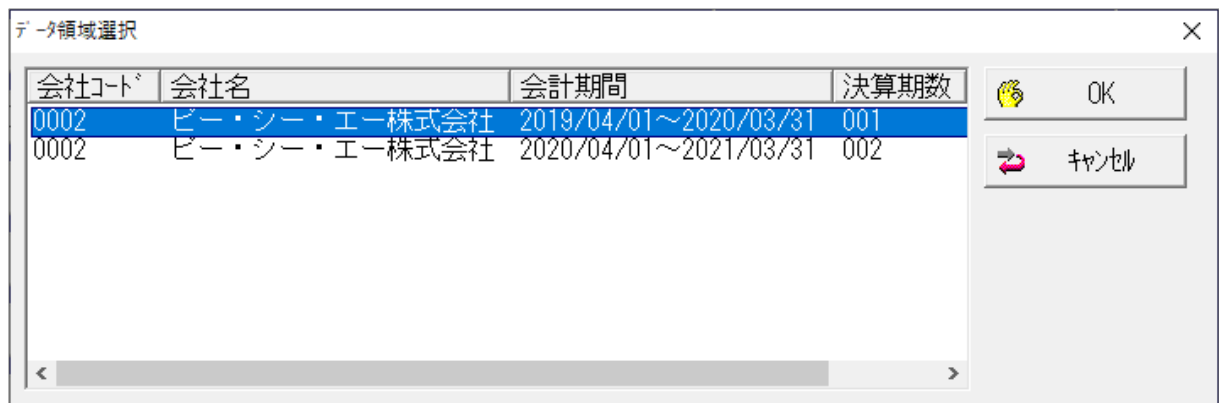
※赤枠内が現在開かれているデータ領域です。



実行し、バックアップが完了すると画面上にバックアップできた領域が表示されます。



- ② メニューの「ファイル」－「データ領域の選択」を選び、前年度を選択して [OK] を押します。(例：ピー・シー・エー株式会社 第1期を選択します。)



- ③ メニューの「ファイル」－「期末更新処理」を選択し実行します。

※再更新の場合、更新先領域が新年度領域の会社名・会計期間が表示されます。

※ [税抜更新] [税込更新] は、会社の経理方法に合わせて選択してください。

一つの目安として、決算整理仕訳に仮受消費税等、仮払消費税等の相殺仕訳を入力し、税抜の決算書を作成している場合は [税抜更新] を選択し、免税事業者などで仕訳を税込で処理している場合は、 [税込更新] となります。



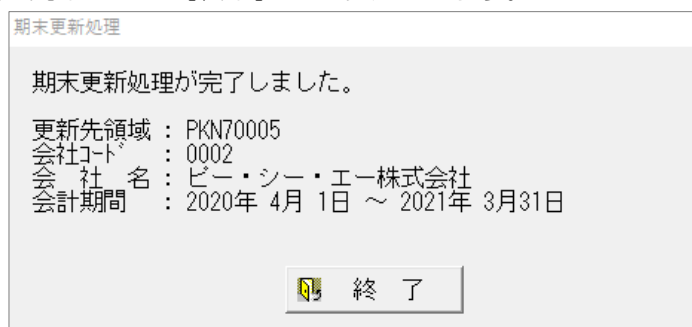
- ④ 「転送工事の選択」で新年度、転送しない工事を [削除] を押し転送しない工事に移動させます。完了しましたら [OK] を押します。

※前回選択した状態で転送する・しない工事が表示されます。

【注意】 転送しない工事を誤って転送する工事に入れ更新した場合、新年度で削除する必要が出てきます。



- ⑤ 完了したら [終了] をクリックします。



- ⑥ メニューの「ファイル」－「データ領域の選択」を選び、新年度を選択して [OK] を押し、「前準備」－「科目名・期首残高」等で残高の確認をお願いします。
 以上で処理は完了です。（例：ビー・シー・エー株式会社 第2期を選択します。）

